

私を揺さぶる、グランプリ。12月16日からポートルース住之江で開幕する1年の総決算、SG「第40回グランプリ」に向けた特別企画がスタートする。「Road to THE GRAND PRIX」シリーズの第1弾としてトップレーサーの峰竜太（40＝佐賀）、定松勇樹（24＝佐賀）の師弟コンビにスポットライトをあてる。今年も上半期が終わり、プライベート、理想のグランプリ、最高の榮譽をつかむための意気込みなどを熱く語った。

（取材日＝6月30日）

定松勇樹

ネガティブな発想は捨てた

6	5	4	3	2	1	枠番
						定松勇樹
西山 貴浩	上野真之介	山田 康二	宮地 元輝	峰 竜太	定松 勇樹	選手名

↑定松選手が考える優勝戦メンバー↑
これが俺のグランプリだ。当企画に登場した選手が「理想のグランプリ」出走メンバーを独断で作成。いつか夢の一番が実現する日がやってくる!?



24年オールスター

成長した姿で現れる。競りになって先着3着したレース、いろいろな方からあれは良かったと言われている。勝ちにこだわって走っていますが、3着なのに内容を評価していただいたのがうれしくて。要所でできることをしっかりやりきった。またひとつ、自信というピースが増えた。どこまでも師匠譲りだ。グランプリを優勝したら、とにかく好きなものを買いまくるといふ。「なにか目的がないと、レーサーをやれていない。だから、自分への褒美だと思つて」。今後、何度も大舞台に挑み続ける峰竜太の後継者。可能性は無限大だ。今年、仮にベスト18入り成らずでも、定松はしっかりと自分を見つめ、さらに

23歳オールスター制覇
定松勇樹は震えていた。昨年5月の多摩川SGポートルースオールスターを史上4番目の23歳という若さで制し、年末の第39回グランプリに初出場。ただ、いざピットに足を踏み入ると、異様な雰囲気包まれ、完全に萎縮した。「気持ちの高まりというか、もうドキドキで緊張しまくって。空回りしてしまうので、少しずつ慣れてはいたんですけど、ピリピリ感はずくありましたね」。偉大な師匠・峰竜太との参戦は大きな支えだったが、それでも最高峰の舞台は甘くない。トライアル3回戦で6枠の茅原悠紀にコースを奪われ、メンタルは大きく揺さぶられた。「進入からすごい駆け引き。最後に経験値の差が出ました」と振り返る。ファイナル進出の目安とされる21点に到達。確率的に初出場でのベスト6入りと思われたが、数少ない確率で進出ならず。初の大舞台でこれまでに経験したことのない悔しさ、反省、学びを得た。

結果を出す
その根底に
しっかりとした
自信が持てるか

「トライアルで松井繁さんと大競りになって先着3着したレース、いろいろな方からあれは良かったと言われている。勝ちにこだわって走っていますが、3着なのに内容を評価していただいたのがうれしくて。要所でできることをしっかりやりきった。またひとつ、自信というピースが増えた。どこまでも師匠譲りだ。グランプリを優勝したら、とにかく好きなものを買いまくるといふ。「なにか目的がないと、レーサーをやれていない。だから、自分への褒美だと思つて」。今後、何度も大舞台に挑み続ける峰竜太の後継者。可能性は無限大だ。今年、仮にベスト18入り成らずでも、定松はしっかりと自分を見つめ、さらに



自己紹介	
名前	定松 勇樹
生年月日	2001.05.02
自分の性格	人懐こい
趣味	ゴルフ
特技	寝ること
得意な決め手	逃げ
好きな色	白
好きな食べ物	水炊き
ひと言	2026年!!